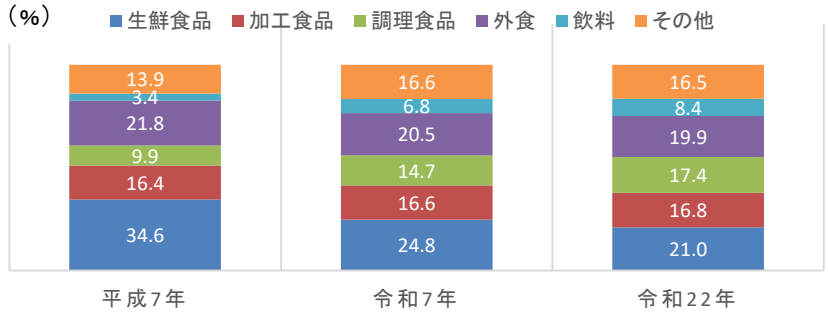
加工・業務用野菜の産地づくり

ZEN-NOH

○　今後も加工・調理食品の構成比が増すと予測され、生産者所得の確保には加工・業務用野菜への対応が重要
○　タマネギやブロッコリーなどでは輸入品との価格差が縮小しており、国産への切替に期待

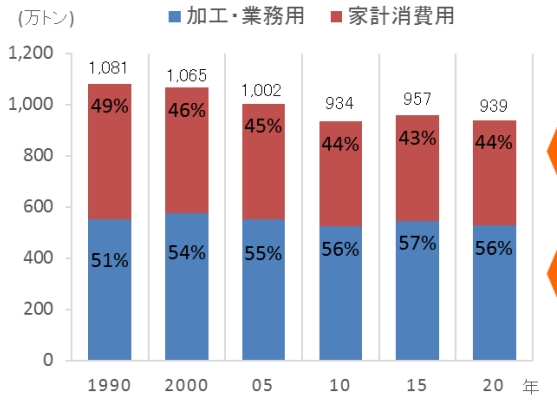
品目別食品支出の将来推計

- 農林水産省のシミュレーションによると、生鮮食品は年々減少し令和22年には21%の構成比となり、加工・調理食品の構成比が上がる予測となっている



資料：農林水産政策研究所「我が国の食料消費の将来推計（令和元年版）」を基に農林水産省が作成

加工・業務用野菜及び家計消費用野菜の国内仕向量の推移

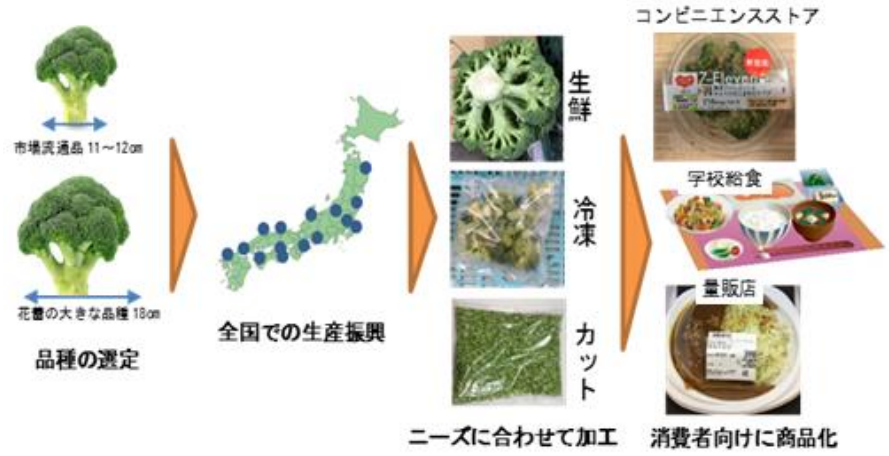


・家計消費用仕向量の多い国産野菜上位5品目
①たまねぎ
②きゃべつ
③トマト
④だいこん
⑤はくさい

・加工・業務用仕向量の多い国産野菜上位5品目
①だいこん
②きゃべつ
③たまねぎ
④はくさい
⑤にんじん

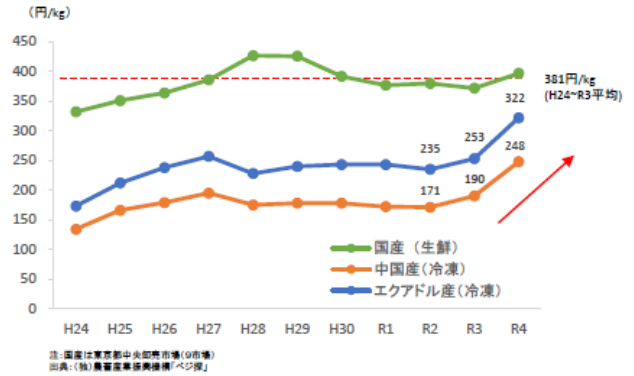
契約栽培の取り組みを強化し、実需者ニーズを反映した適性品種の選定、省力・多収技術の導入、端境期対策などを推進

国産ブロッコリーを原料とした商品開発事例



国産生鮮品と輸入冷凍ブロッコリーの価格推移

・輸送コストの増加等により、輸入冷凍ブロッコリーの価格は大きく上昇。国産品との価格差は大幅に縮小傾向にあり、国産切替のチャンス



注：国産は東京都中央卸売市場（9市場）
出典：（独）農畜産業振興機構「ベジ探」